

ボランティア 活動に思う



ゆかりのまち 関ヶ原町長
桐山 一男 氏

教育随想



平成15年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
関ヶ原町長 桐山 一男氏	
この人に聞く	2
(助)日本民謡協会公認教授 茂木 敏男氏	
羅針盤	2
学習情報指導員 小川 規博	
ふれあい	3
岩津 小 堀木 優美 北 中 稲垣 悦男	
特集	4
燃える駅伝部 一本のタスキに思いを込めて	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
理科園の整備(昭和25年)	
この本を	8

関ヶ原町は、古くから東西文化の接点にある地理的・歴史的な要素である。壬申の乱や関ヶ原合戦の舞台となったことから、関連の史跡も多く、全国から史跡探訪や観光に訪れる人も多い。

こうした背景を踏まえて、教育委員会会の事業として「青少年ふるさと歴史ガイド講座」を実施している。この事業は、青少年にふるさとを愛する心や自分が住む町のためにボランティアとして活動する意欲や力を育成することをねらいとするものである。

本年度は、中学生を中心に小学生や高校生二十七人がガイド講座を受講し、関ヶ原町を訪れる方々に、休日を利用して歴史ガイドを行っている。ガイドを受けた観光客から、お礼

や称賛の言葉をいただくなどの反響も大きく、それが受講生の大きな喜びや励みともなっている。

もちろん、受講生の活動の中で、直接観光客の前に立つ現地でのガイドはほんの氷山の一角であり、それまでには、年間十数回の歴史の学習会、ガイド案内文の作成、接客マナーや話し方の研修など、毎回の講座での地道な努力があつてこそできることである。

このガイド講座は三名の主婦の方にボランティアとして、無償で指導いただいている。受講者も三年前にスタートした時はわずか三名であったが、年々増加してきたことも、受講生に意欲や充実感を与えつつ活動してこられた指導者の献身的な努力がうかがえて、町としても感謝の念

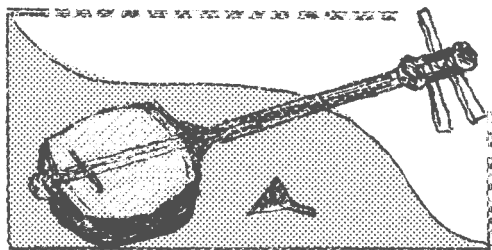
を禁じ得ない。

学校教育のみならず、地域教育におけるボランティア活動についても、「教育は人なり」を実感しているところである。

(きりやま かずお)



ふるさとシリーズ この人に聞く



岡崎の良さを 民謡で広める

(財)日本民謡協会公認教授
茂木 敏男 氏

生まれ育った秋田県から岡崎に来て三十二年。二十年前に民謡研究会を作り、現在も講師として活動を続ける茂木さんは、今年、自作の民謡『岡崎八丁味噌仕込み唄』で民謡民舞愛知・岐阜県連合大会の総合優勝を勝ち取った。

茂木さんは、岡崎の民謡をつくるようになった動機を熱く語る。

「冬は雪に埋もれる横手盆地に比べれば、岡崎にはうらやましいロケ―

ションが多い。川・城・きれいな町並み。ここに唄がないのはとても寂しい思いがしました。」

岡崎の風土に愛着を感じ、唄をつくるための取材を始めた。時には郷土史家の指導も受けたりして、自分が納得いくまで調べつくすという。想像の世界だけでつくと唄がうすっぺらくなってしまふからだ。唄をつくる前、これが茂木さんの一番楽しいと感じる時間だそうである。

「唄をつくることも、もし自分の職業であったとしたら、その楽しさは半減しているでしょう。あくまで自作の民謡は自分の道楽の延長、だからこそ楽しいんです。」

にこやかに語る笑顔は生き生きしている。こうして会社勤めの傍らつくった曲は三十を越える。

「私が生まれたころ、育った隣近所には義理や人情があり、また忍耐と努力の生活が日々ありました。生活に厳しい毎日であったからこそ、人の温かさや優しさ、思いやりを感じる事ができたんです。民謡の真髓(こころ)はここにあるんです。」

生活が豊かになり、民謡に関心がない世代が増えたことを寂しく思う茂木さんには、今の子供たちへどうしても伝えたいメッセージがある。

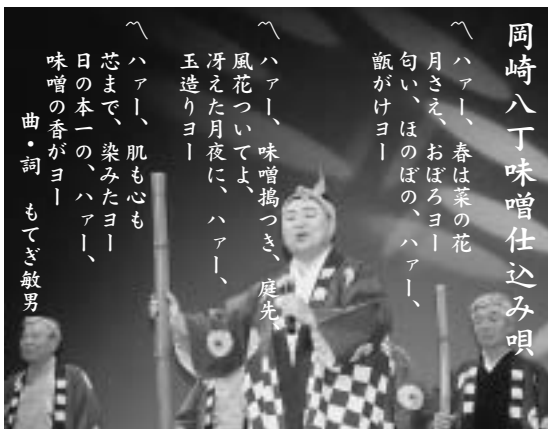
岡崎八丁味噌仕込み唄

「ハァー、春は菜の花
月さえ、おぼろヨー
匂い、ほのぼの、ハァー、
甑がけヨー

「ハァー、味噌搗つき、庭先
風花ついてよ、
冴えた月夜に、ハァー、
玉造りヨー

「ハァー、肌も心も
芯まで、染みたヨー
日の本一の、ハァー、
味噌の香がヨー

曲・詞 もてぎ敏男



「もつと民謡の良さを知ってほしいですね。民謡を理解してほしいと言うのではなく、民謡を聞いていいもんだなあと感じてくれるだけで、こんなうれいことはないんです。そのためだったら、声がかかればどこへでも駆けつけて唄います。」

そんな茂木さんを訪ねて、現在二人の中学生が門をたたき、一生懸命練習に励んでいる。

「もしも自分の唄が後世に伝承されるようなことがあれば…。これは私の夢ですね。」

氏名 もてぎ としお
生年月日 昭和二十三年三月九日
住所 東大友町稲葉七六一三



過ぎたるは及ばざるが如し

学習情報指導員
小川 規博

「死刑制度の廃止は反対。凶悪犯が増える。」

「いや、米国では廃止しても犯罪数に変化はないそうだ。」

授業が始まって三分もたたないうちに、白熱した議論が始まった。これは、A中学校の三年生の社会科の授業である。今年、社会科の資料集を購入していないとのこと。生徒たちは何を根拠に、自分の意見を発表しているのか。自分の勝手な思い込みで発言しているのは、相手にやり込められてしまう。自分の意見となる事柄は、すべてインターネットで調べたと、担任が教えてくれた。

インターネットの情報は、主観に満ち溢れている。どの情報がより客観的で正確なのか、判断するのは難しい。自分にとって都合のよい意見に出会うと、信じてしまう危険性も

輝いた笑顔

岩津小 堀木 優美

「岡崎聾学校との交流会で、学年を代表してお礼の言葉を手話で伝えます。やりたい人はいますか。」

わたしの声が教室に響く。大切な行事での代表というプレッシャーや初めての手話への不安からか、一瞬の沈黙。そんな中、A男がゆっくりと手を挙げた。みんなの顔に驚きの表情が浮かんだ。これまで、すぐ友達と衝突し、乱暴な言葉を発したり、教室から飛び出したりする姿を思い浮かべたのであろう。だが、一心に手を挙げ続けているA男の姿に、「A男君、大変だけど頑張ってるんだよ。先生も協力するからね。」と声をかけ、わたしも腹を決めた。その日から、A男の特訓が始まった。はじめに、図書館で手話の本を



借り、自分の言葉に手話をつけていった。忘れないように、何度も何度も繰り返し練習した。以前は放課になると外で元気よく遊んでいたA男が、教室の中で友達に見てもらおううになつた。その一生懸命な様子に、クラスの子の視線が少しずつ温かくなってきた。

交流会の当日。A男が、「先生、頑張ってくるからね。」と声をかけてきた。

そして、本番。会場からの大きな拍手の中に、大役を果たした後の満足感あふれるA男の笑顔があった。



心をひとつに

北 中 稲垣 悦男

文化祭前日、夜六時。私の携帯電話が鳴った。A男だった。

「先生、今、堤下公園で全員集まって歌の練習をしています。すぐに来てください。」

会議で少し遅れて公園に向かう。伴奏のB子が走って私を迎えに来た。一緒に公園に行くと、小雨が降る中、指揮者を一心に見つめ、『風になれ』を歌う子供たちの姿があった。

当日、子供たちが作ってくれた千



羽鶴と縫いぐるみ、そして私が作ったカードのお守りを大事そうに胸ポケットにしまった子供たちは、精一杯『風になれ』を歌った。しかし、賞を取ることはできなかった。

子供たちに申し訳ない気持ちで帰りの会に向かう。教室に入ると、合唱の隊形で子供たちが私を迎えてくれた。

「心をこめて、先生のために歌います」とA男。瞬時に目が合った。どちらからともなく涙がにじむ。そして、三十五人の目にも……。お世辞にもうまいとは言えないが、そこには確かな「心」があった。

歌い終わって、私のもとに集まってくる子供たち。私と子供たちの「心」がひとつになった瞬間だった。

ある。しかし、生徒は自分が主張する資料だけでなく、対立する相手の意見についても調べたため、変に偏った発言は見られなかった。

さて、この授業では機器の利用は全くなかった。もちろん、授業の展開によっては、いつでも使える準備はしてあった。時々見かける授業で、生徒が一時間中コンピュータに向かっていることがある。こうした授業では、生徒たちが何を学び、どれだけ成長したか見えない。それは機器に振り回され、課題追究の授業から操作を学習する授業に変化しているからである。機器を使ったよい授業とは、機器を使う時間に反比例する傾向にある。どのような機器でもワンプointで使用した方がよいことが多い。

この授業では機器を使わない展開になつてしまったのは少し残念であったが、参観していて久しぶりにわくわくする授業であった。このようにコンピュータをうまく使うと、すばらしい授業に発展することは多い。この授業も、前時までのコンピュータ利用がうまく作用していたと言える。できれば自分もこの学級に残り、この生徒たちと「死刑制度」について議論を深めたいと思った。

燃える駅伝部

一本のタスキに思いを込めて

第6回 全国中学校駅伝大会・滋賀県（平成10年 竜南中）

写真提供：P & P 浜松(株)

今月の十九日（日）に第五十四回岡崎市市民駅伝競争大会が行われる。近年、市内全部の中学校が参加するようになった。いったいこの駅伝熱はどこからやって来たのか、駅伝の魅力を探ってみた。

中学校での駅伝に対する思いは大きい。顧問は、生徒たちが練習を通して人間的に成長してほしいと願って指導に当たっている。そのため、支援する人も多く全校体制で行っている。

夏に練習を始め、秋冬と継続して行われる。他の部の三年生は引退し、正規の授業を終えると足早に家路を急ぐ。そんな中、練習と進路の狭間で迷いや焦りが生じることもあったであろう。しかし、励まし合い、支え合って、厳しい練習をこなす。まさに「一本のタスキに思いを込めて」である。

駅伝の練習には生徒と生徒、生徒と教師の心の通い合いがあることが、アンケートからもうかがわれる。頑張った分だけ自分の記録が伸びる。練習中は上級生も下級生もない。選手も補欠もない。ひた走りに走る。その独特の一体感に多くの生徒は駅伝の魅力を感じているのである。

卒業生が築き上げた雰囲気、伝統。それが県大会上位入賞、全国大会出場など市内中学校の駅伝の実績につながっている。



▲ 冬空のもとで試走（竜海中）



▲ 全校生徒の声援を受ける選手激励会（矢北中）



▲ 闘志たぎる 市民駅伝のスタート (平成14年)



▲ 走ることを支える数々の練習 (岩津中)

▼ 卒業生のメッセージ

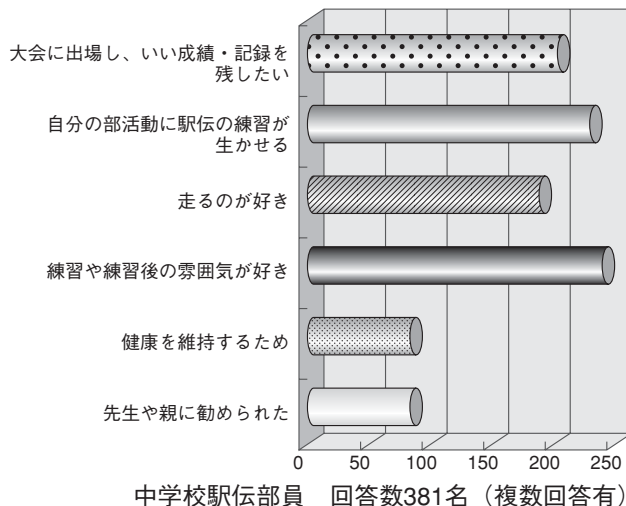
私は駅伝部の雰囲気がとても好きです。苦しく辛い練習ですが、声をかけ合い、みんなががんばっていると、その練習も楽しくさえ感じられることができました。私の競技生活の基盤ができたのも、中学校時代の駅伝と言っても過言ではありません。自分の可能性を信じ、目標を持って練習に励んでください。



内田 直 将

平成14年度全日本大学駅伝優勝 第1区走者
平成15年箱根駅伝 エントリーメンバー
現駒沢大3年 竜海中出身

駅伝部の魅力はなあに？



● 全国中学校駅伝大会出場記録 ●

☆男子の部	平成6年	竜海中学校	
	平成8年	竜海中学校	…… 第6位
	平成9年	竜海中学校	…… 第4位
	平成10年	竜南中学校	
	平成11年	六ッ美北中学校	
☆女子の部	平成14年	六ッ美中学校	



▲ 全国大会出場を果たした女子駅伝部 (六ッ美中)

お知らせ

●教育最新情報

IT教育事情

○OKキッズの紹介

岡崎教育ネットワークのWebページを一新した。名称も「OKリンク」とした。児童・生徒が、各教科の学習で教育ネットワークを使って情報収集をしやすくしようというのが、この「OKリンク」設定の理由だ。

「OKリンク」を開くと、左側のメニューには、今まで散在していた岡崎市の教育関係のページを整理して載せてある。メニュー一覧から「教材集」を選んでいくと、その中に「OKキッズ」がある。

ここに、今まで構築してきた教育用コンテンツをすべて登録してある。千タイトルに及ぶ動画データはもちろんの



こと、「学校インターネット3」の研究委嘱を受けた市内二十八小学校から提供された地域教材四千件も登録してある。さらに、インターネット上の教育サイトも数多く登録してある。これらは、教育現場が使いやすいように内容も吟味してある。

平成十四年十二月末現在で教育用コンテンツ及び教育用サイトの登録件数は合計で、一万三百十二件で、日々、追加・更新している。

OKキッズ教育コンテンツ登録件数

教科・領域	登録数
国語	192
算数・数学	33
社会	658
理科	796
生活	256
音楽	341
図工・美術	181
技術・家庭科	271
保健体育	342
英語	38
道徳・特活	120
総合学習	760
全教科(教育一般)	1,324
学校提供地域教材	4,000
動画データ	1,000
合計	10,312

また、インターネット上の一つのサイトの中には、数多くのコンテンツが含まれている。例えば、算数・数学の教科書会社のサイトには学年別のドリル問題や実践事例が多く含まれているし、社会科学の「歴史人物」というサイトでは二十〜三十人の歴史上の人物に関する情報が含まれている。こうしたことから、実際には表記の数よりかなり多いコンテンツがあることになる。

今後、各小中学校からも学習成果や有効情報等の提供をいただきながら「OKキッズ」を充実させていく予定である。



▲OKキッズの画面

●海外研修報告

新香山中 市川 敏彦

第一回岡崎市教員海外研修として、イタリアのローマとミラノを訪問した。訪問先は、小学校三校、中学校一校、日本人学校、子供が授業や家庭で訪れる博物館二か所である。目的は、「教育改革をどのように進めようとしているか」、「話す文化が学校教育でどのように取り入れられているか」、「不登校がない原因は何か」などであった。

全体の保護者に伝達される仕組みになっていた。表現力の育成については、自分の考えをもたせる場や対話を重視する場を多く設け、コミュニケーション能力を養うことを重点にしていた。進級試験で口述試験が重視されている点も、表現力の育成に効果があると思われる。

学級定員は最大二十五名で、障害のある子供がいる場合は二十名にでき、担当教師も各学級二名であった。特殊学級や養護学校は存在しない。こうした教育改革により、義務教育でも留年がある同国で、その割合が減少している。

不登校については、親は学校に行かせる義務があり、それが徹底されていた。学校に行かせないと保護者が警察に連れて行かれるのである。他にも、安全管理の面で日本と異なる面が多く、違う世界を見ているような一週間であった。

また、学校選択の自由が認められ、学区はあるが、学校の特色で保護者が学校を選択する。学校の教育方針にも、保護者が加わり、学校評議員会が開かれる。ここで最終的な方針が決められ、その後、

また、学校選択の自由が認められ、学区はあるが、学校の特色で保護者が学校を選択する。学校の教育方針にも、保護者が加わり、学校評議員会が開かれる。ここで最終的な方針が決められ、その後、



▲ローマ・モンテッソーリ幼・小学校での授業風景

● 第三十回教育文化賞



▲ 第30回教育文化賞授賞式 (平成14年11月16日・せぎれいホール)

(個人)

◇ 石川貢氏

昭和五十四年「岡崎地区青少年赤十字」を結成し、中心となって活動している。退職後は市内小中学校で教員に講話をしたり、市民センターで家庭教育や幼児教育の講師を担当したりして貢献している。

◇ 山本みよ子氏

世界的に活躍する音楽家で、市内でも三十七回の演奏会に出演している。岡崎「第九」をうたう会発足以来の指導等専門性を生かし、地域の音楽文化の振興に寄与している。

◇ 天野幸輔氏

平成二年より「死の授業」

の教材化について研究を開始する。NHK「クローズアップ現代」や各種の書籍に取り上げられ、実践の成果や価値が認められている。市内での講演や普及活動も進めている。

(団体)

◇ 岡崎市立本宿小学校

昭和五十六年文部省から「心身障害児理解推進校」の指定を受けて以来、二十一年間にわたって養護学校との交流を継続している。

◇ 岡崎市立大樹寺小学校和太鼓「阿吽」

平成二年祭りばやしクラブとして発足。市内各種イベントで多くの人に喜びと感動を与える一方、複数の福祉施設への訪問演奏でも貢献している。



▲ 和太鼓「阿吽」の演奏 (大樹寺小)

● 表彰

◆ 第四十四回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル

入賞 (○印) 西三河大会入賞
美川中二年 大須賀郭敏
○附属中二年 貝吹 飛鳥

南 中三年 小塚 昌代
葵 中三年 猪飼美穂子
○常磐中三年 田中 優美

河合中二年 遠藤紫英良
南 中二年 柴田 麻衣
○矢作中三年 梅田 直美

○新山中三年 戸田友貴子
福岡中三年 永田 祥晃

◆ 国際ボランティア作文コンクール
文部科学大臣奨励賞
広幡小三年 伊藤 舞

◆ 第十九回明るい社会づくり実践体験文
● 小学生の部
市長賞 矢東二年 坂口 勇太
委員会賞 緑丘五年 山上 智加
● 中学生の部
委員会賞 常磐三年 大石 結理

◆ 税についての作文
全国納税貯蓄組合連合会
優秀賞 河合三年 市川 太一

◆ 第三十六回全国中学校文芸作品・歌曲創作コンクール
第二位 河合三年 島 貴子

◆ 岡崎市防火ポスター・習字市長賞のみ
● ポスターの部
小豆坂小五年 八田 康裕
付属小六年 山下 真斗
矢作中二年 鈴木 知里

● 習字の部
岩津小五年 鈴木 円
大樹寺小六年 東海 文香
甲山中二年 鈴木 文華

◆ 第三十七回CBCこども音楽コンクール
● 中部決勝大会
最優秀賞 築奏部 城北中学校
優秀賞 築奏部 岩津中学校
優秀賞 重奏部門 城北中学校
優秀賞 重唱の部 矢作北中学校
優秀賞 合唱の部 矢作北中学校
優秀賞 合唱の部 南 中学校

◆ 全日本小学校バンドフェスティバル
優秀賞 竜美丘小学校

◆ 平成十四年度中部日本吹奏楽コンクール 本大会
● 中学校小編成の部
優勝 岩津中学校
● 中学校大編成の部
準優勝 竜海中学校

◆ 第二十一回愛知県中学生バレーボール新人大会
男子優勝 六ッ美中学校

三位 矢作北中学校
女子優勝 矢作北中学校
◆ 第五十二回西三河中学校駅伝大会
● 男子優勝 六ッ美中学校
二位 東海中学校
四位 北中学校
● 女子優勝 六ッ美中学校
四位 竜海中学校

◆ 第五十一回県中学校駅伝大会
● 男子三位 六ッ美中学校
四位 北中学校
● 女子優勝 六ッ美中学校

◆ FBC学校花壇設計図コンクール
● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校

● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校

● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校

● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校

● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校

● 女子優勝 六ッ美中学校
● 男子優勝 六ッ美中学校



▲ 愛知県中学生バレーボール新人大会 (天白スポーツセンター)

・カ
ツ
ト
緑
丘
小
坪
井
恵
理
子

フォト・ヒストリー

岡崎の教育



写真提供 甲山中学校

理科園の整備

(昭和25年)

甲山中学校は、昭和二十二年、梅園小・根石小学校舎を間借りして発足した。校舎は第一期・第二期工事を経て、昭和二十六年三月、現在の地に完成した。写真は、昭和二十五年、先生と生徒と一緒に理科室前の観察池・水生植物園の整備や飼育小屋作りを行っている様子を撮影したものである。生徒の表情が生き生きと写し出されている。また、生徒の服装がまちまちで制服が決まっていなかった様子がうかがわれる。

学校が発足する前から、教師と子供と一緒に学校施設を作るといふのは、この当時ならぬことであろう。

新年のあいさつを子供たちと交わした。

「明けまして、おめでとうございます」

登校してくる子供たちの元気な声が聞こえる。どの子の目も輝いている。去年よりも大きく膨らんだ夢に向かって、心新たに前進しようとする意気込みが伝わってくる。

シ オ ス ア

ストーブの上で餅やスルメを焼いたり、時には冷たいみかんを温めたりして、冬を楽しんだ子供ころ。やかんから立ち上がる湯気をただ眺めもなく眺め続けていた。今は、やかんを置くストーブが珍しい時代である。今年も何かが変わっていくに違いない。

大晦日、除夜の鐘とともに行く年を惜しみ、新たな年を迎えた。学校完全週五日制、総合学習の本格的導入、中学校の絶対評価など教育界の大きな改革も、いよいよ二年目となる。児童生徒の気持ちをよく見つめ、学校の実態に則した教育改革を実践していきたい。

秋田にはない岡崎の良さを熱く語る茂木さん。矢作川の清流に遥か昔を想い「矢作川船唄」を、赤味噌のうまさひまに惹かれ「岡崎八丁味噌仕込み唄」を生み出した。故郷を想う心は人間の原点である。総合的な学習で目指しているのも、故郷を愛する心ではないだろうか。



- *この命、何をあくせく 城山 三郎 講談社 ￥1400
- *小さき者へ 重松 清 毎日新聞社 ￥1700
- *日本つむぎ 大岡 信 世界文化社 ￥1800
- *釈 迦 瀬戸内寂聴 新潮社 ￥1900

- *ひどい感じ 父・井上光晴 井上 荒野 講談社 ￥1600

自分の出生地を初め、少年のころ、崎戸炭坑で働いていたということなど、どれもすべてうそだった。家族に対してうそをつき通していた父・井上光晴の心の闇を探ることで、娘と父親との間の距離を計りなおしてみようと試みている。

井上光晴はすべてのものを自分でこうと決め、創作の世界にいてと言っているのではないか。瀬戸内寂聴は、帯でこう書いている。「小説として読んでしまった」と。

父・井上光晴のことを淡々と書いているのだが、それはある父親の物語である。